

実務者活動手厚く支援

辻体制がスタート

JL東海北陸本部

「明るく、楽しく、元氣よく、取り組む」と辻新本部長

「明るく、楽しく、元氣よく、取り組む」と辻新本部長



【愛知】JL連合会の東海・北陸地域本部は6月24日、2023年度の運営方針発表大会を開き、辻直樹副本部長（53、マイシン）を本部長とする新体制がスタートした。辻新本部長が事業計画や予算を説明し、「ブレずにきちっと取り組む」と抱負を述べた。

辻氏は1995年に大型車ドライバーとしてメインに入社したと自己紹介し、帰りが遅いという荷物情報を得ても実際に集荷するまでに何件も連絡してようやく荷物がたどり着くという入社以来の長年の経験を吐露。ローカルネットが立ち上がった当初、会社に導入された専用端末で、配車係の横で自ら荷物を獲得し、「これは本当に便利だと思った記憶がある」とローカルネットとの関わりを説明した。

「新型コロナウイルス感染症拡大の3年半、人が集まることができなくても、文堂（史朗）前本部長だけは顔と顔を突き合わせて話すことがローカルネットの特徴。東海北陸だけはやるんだ」と話し、ヒューマンネットの強さを教えてもらった」と文堂氏に敬意を示した。

また、「各協組のことで併せてどうしたら東海北陸地域本部がより良くなるか考え、任期を全うしたい」と強調。「だからやりたくない。明るく、楽しく、元氣よく、ブレずにきちっとやっていくエ力を込めた。今期の計画では、同本部が10年にわたって継続してきた運行管理者等指導講習について、講師を務めてきた

佐藤義憲事務局長が退職することにより、下期からの休止を決定。このため、22年度予算額から削減した予算計画で運営する。辻氏は費用を抑制することを説明しながら、実務者関連予算については「手厚くした。仕事へのやり取りをするのは実務者で、実務者が大会などに出席しやすくなるためにも、そこにはお金を使いたい」との方針を表明した。

今年からJL連合会の本部理事に就任した文堂氏（53、マイキライン）は4期8年、皆さんのために地域のために頑張ってきた良いかという思いでやってきた。素晴らしいローカルネットワークがますます発展

実させ、人材確保と育成、求職求事業の改善に向けた輸送効率の向上に取り組む。新たな組織体制と各役員を紹介。表彰では、22年度に組合員拡充や取引高、取引件数拡大などで目標を達成した協組「優秀だった実務者」を表彰した。（奥出和彦）